

集會結社法案貴院御諮詢  
相成候ニ付テハ右法案起草理由  
書為御添考及御曲附候也

明治三十三年七月九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋



樞密院議長伯爵大木喬任殿

内

閣

現行集會條例ハ明治十三年ノ制定、  
傳、日十五年之ヲ改正ニ爾來七八年  
間、在テ社會ノ情勢、當時ノ比、  
アラス故、該條例中或ハ嚴密ニ流レ  
或ハ缺漏ニ失フモノ甚シトヤ又然ルニ  
帝國憲法ヲ發布セラレ言論著作集  
會結社、如キ政治及社會ノ上ニ勢力  
ヲ有スルモノニシテ其ノ變ニテ罪惡  
ヲ成シ又ハ治安ヲ妨害スル者ヲ除ク

内閣

外其ノ自由ヲ予ヘテ以テ國民思想  
ノ交通ヲ發達セシメ且以テ人文進化  
ノ為メニ有益ナル資料ヲシム況ニ  
ヤ新聞出版ニ條例ハ既ニ明治二十年ニ  
於テ之レヲ改正シ以テ社會情勢ニ  
適應セシメタリ今集會結社ノ條例ヲ  
改正シ寬嚴其ノ當ヲ得勉テ以テ國家  
ノ安寧秩序ヲ保持スヘシ茲ニ其ノ改  
正ヲ要スヘキ概略ヲ左ニ陳列ス  
一現行條例中政治集會ヲ為スモノヲ

之ヲ講談論議ノ事項ヲ屈出シムル  
カ如キ繁雜ノ手續ハ宜シク之ヲ簡  
略ニスヘシ

一集會ノ解散ヲ命シタル場合ニ地方  
長官ハ情狀ニ依リ演說者、對シ一  
府縣内ニ政談ヲ為スコトヲ禁シ内  
務大臣ハ更ニ全國内ニ政談ヲ為ス  
コトヲ禁スルカ如キ立憲政體ノ今  
日ニ於テ行政變分ヲ以テ自由ヲ束  
縛スルノ嫌ナキニテ宜シク之ヲ

内閣

全廢スヘシ

一現行條例中刑律ニ觸レタル罪犯ヲ  
曲庇シ若ハ其ノ者ヲ救護賞恤スル  
等ノ演說ヲ禁スルノ條項アラス是  
缺漏ニ失スルモノニシテ現今社會  
ノ情勢ニ適應セザルモノナレハ宜シ  
ク之ヲ補足スヘシ

一現行條例中陸海軍人常備豫備後  
備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立  
私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見

習生ハ之ニ臨會ニ又ハ其社ニ加入  
スルコトヲ得ストアリ然ルニ海陸  
軍人ノ豫備後備ノ各籍ニ在ル者ハ  
陸軍治罪法第七條及海軍治罪法第七  
條ニ曰歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召  
集中ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得又衆議院  
議員及地方議會議員ト爲ルコトヲ得ル  
ヲ以テ此條例ニ於テ依然之ヲ禁スルノ理  
ナシ宜シク改正シテ其ノ臨會入社ノ制限  
ヲ解ク可シ

内閣

一政權ハ獨リ男子ノ有スルモノニシテ女子  
ノ之ヲ有セサルハ疑ヲ容ル可ラス是我條  
例ニ於テ女子ニ集會又ハ政社ニ加入スル  
コトヲ禁スヘキ所以ナリ

一李國條例ニ戎器或ハ兇器ヲ携帶シ  
テ集會スルヲ禁スルノ條アリ我條例ニ  
宜シク之ヲ補足スヘキモノトス

一李國集會條例第九條第十條第十一  
條ニ於テ家屋外ニ於テ集會及多人  
數隊伍ヲナシテ郷邑又ハ公ケノ道路ヲ

行クニ就テノ制限ヲ設ケタリ  
條例第三條第五條及第七條ニ於テ  
亦其ノ制限ヲ設ケタリ我條例ニ於テモ  
屋外集會及多數隊伍ヲ為シテ示  
威運動會ト稱スルモノ、如キハ宜シク  
其ノ制限ヲ設ク可シ又李國條例第十  
一條ニ國王ノ宮城及議院開設期限内  
兩議院所在地ニ里以内ニ於テ其ノ集會  
ヲ禁シ  
條例第七條ニ議院  
開場ノ間ハ其ノ地方及其ノ五マイル以内  
ニ就テ家屋外ノ集會ヲ開クヲ禁シタリ  
英國ニ於テハ五十人以上議院近傍ノ  
屋外ニ集會シ教會及國家ノ事ニ關  
シ國王若ハ兩院ノ一ニ請願ヲ提出セ  
ントスル者ハ法律ニ背キタルモノトセリ  
我條例ニ於テモ宜シク斟酌シテ其ノ  
制限ヲ設クヘシ

内

閣